W3M

本科１期７月度

解答

Ｚ会東大進学教室

# 早慶大世界史

# １１章　近代Ⅰ

## 問題

【1】

**解答**

問１　⑴　①　c　　②　b　　③　d　　⑵　b　　問２　A　c　　B　d　　問３　a
問４　f

**解説**

イギリスにおいて産業革命が世界に先がけて起こったその原因と経過が，テーマとなっている問題である。問題文をよく読んで，なぜ世界で最初に産業革命が起こった国がイギリスだったのか，その条件をとらえること。

問１　産業革命期にイギリスで発明された紡績機械について，実際の入試ではこの程度のレベルまで問われるという実例である。その主要なものについては，発明者と，それまでに発明された機械との相違点・改良点をまとめておく必要がある。その際，「ジョン＝ケイの飛び杼の発明による糸不足を解消するために，ハーグリーヴズがジェニー（多軸）紡績機を発明した」といった発明機械間相互の関連性も押さえておきたい。流れを把握しておくことは，⑵の年代整序問題にも対応できる実力となるのだ。

問２　a～eの５つの説明文を吟味する前に，まず本文のAとBにあてはまる国名を確定しておこう。このイギリスと覇権を争った２国についてだが，その年代に注目したい。イギリスは17世紀後半にオランダと海上覇権を争いこれに勝利し，さらに18世紀にはフランスと北米やインドで植民地獲得競争を行っている。よってAにはオランダが，Bにはフランスが当てはまる。これは，問題文にある「1652年から1674年」が３度にわたる英蘭戦争（イギリス＝オランダ戦争）が展開されていた時期をさしていることからも，その正しさを裏付けることができる。

さて，空欄に当てはまる国名が判明したところで，次に説明文a～eの文がそれぞれどの国をさしているのかを考察しよう。

a　コロンブスの航海を援助したのはスペイン女王イサベルであるから，aはスペインである。

b　この説明文のキーワードは「インドのゴアに総督府」を設置，「マカオの居住権」を獲得，そして「1543年には…日本にも来航した」といった点であろう。ここからポルトガルをさすことは明らかである。ポルトガルはマカオの居住権を1557年に中国の明朝より獲得したが，正式に領土としたのは1887年のことである。マカオは1999年末に中国に返還された。

c　スペイン王「フェリペ２世の圧政」に対して「1568年」に「独立戦争」を起こし，「1648年のウェストファリア条約」で各国からその独立を承認されたのはオランダである。よって，Aのオランダを説明しているのはこのcとなる。

d 「リシュリュー」が宰相として政治力を発揮したのはルイ 13 世の時代のフランスである。よって，Bのフランスを説明しているのはこのdとなる。

e 「1775 年」の「レキシントン」の戦いを契機として，イギリスとの間で「独立戦争」（～1783）を起こし，これを勝ち取ったのは合衆国である。

問３ この問題では 18 世紀に起こった第２次囲い込み運動における対象が何であるかが問われている。第２次囲い込みの目的は，市場向けの「穀物生産」だったので，aが正答となる。間違えやすいのがbの「羊毛生産」であるが，これは 16 世紀頃に行われた第１次囲い込みの目的であった。当時のイギリスの工業製品は毛織物が主流であったからである。その後，東インド会社の輸入品であるインド産綿織物の需要が増え，イギリスでも綿織物が生産されるようになったが，その効率化をはかって一連の産業革命が起こったのである。この結果，イギリス工業生産の中心は毛織物から綿織物へと変化し，インドでの綿織物を中心とする手工業は大打撃を受け，単なる原綿の供給地とイギリス製品の市場になってしまう。

問４ 「資本主義の発展を妨げていた種々の独占や特権を廃止」した出来事とは何か，考えればよい。ここでいう「種々の独占や特権」とは絶対王政の時代に王が一部の特権商人に独占権を与えていたことをさすので，絶対王政が覆った事件，すなわち「イギリス革命」が正答となる。

**【2】**

**解答**

問１ 2　問２ 3　問３ 2　問４ 4　問５ 2　問６ 4　問７ 2
問８ 4　問９ 1

**解説**

産業革命というテーマが世界経済史上で持つ意義は大きく，とくに経済学部志望の学生にはしっかりと押さえておいてもらいたい。今回の問題は慶應大学の経済学部からの出題であり，正誤判定ではかなり踏み込んだ内容まで問われている。経済学部だけでなく，同大学の志望者はしっかりと復習しておくこと。

問１ 「問屋制やマニュファクチュアを中心として資本の蓄積が行われた」のは事実であるが，17 世紀半ば以降の市民革命により，ギルドなどの様々な規制は緩められていたので，「独占や特権を基礎」にしていたとはいえない。

問２ 「産業革命の開始に先立ち」が誤り。産業革命→台頭した産業資本家の自由貿易への要求→東インド会社のインド貿易独占権廃止が決定 (1813 年，実施は 14 年 ) の順である。これに続き，1833 年には東インド会社の商業活動がすべて停止された（実施は 34 年）。この結果同会社は貿易会社から変質し，インドにおけるイギリスの統治機関となった。

問３ やや難。確かに独立自営農民（ヨーマン）は第２次囲い込みによって没落したが，「産業革命が始まる前に～消滅していた」とはいいがたい。ヨーマンの消滅は 18 世紀末頃のことである。

問４ 紡績機械で初めて蒸気機関を取り入れたのはアークライトの水力紡績機であるから，４は誤りとなる。なお，カートライトは蒸気機関を利用する力織機を考案した人物である。

問５　17 世紀～ 18 世紀の大西洋三角貿易は，西欧の武器・雑貨を西アフリカへ，西アフリカの黒人奴隷を西インドへ，西インドの砂糖などを西欧へと運ぶというものであった。

問６　18 世紀，ティータイムが一般化していたイギリスは，中国から茶を輸入していた。しかしこれに対する中国向け輸出商品がイギリスにはなく，銀は一方的に中国へと流れていた。この流れを止めるべくイギリスが考え出した方法が，インド産のアヘンを中国へと運ぶ三角貿易であった。これは，イギリス産の綿製品をインドへ運び，インド産アヘンを中国へ運び，中国の茶をイギリスへ運ぶ貿易形態である。アヘンの害毒は中国人民を蝕み，銀の流出とともにその道徳的問題は清朝の大きな課題となった。この結果として起こったのがアヘン戦争（1840 ～ 42）である。

問７　インドは元来綿製品をイギリスに輸出していたが，イギリスで産業革命が進展した結果，イギリス綿織物の市場と綿花供給地になってしまった。

問８　機械の発展は作業の効率化を促す反面，労働者や技術力をそれまでほど必要としなくなるため，労働者数の削減を進める一面を持った。機械の利用が拡大するにつれて，失業の恐れが大きくなった手工業者や労働者が起こしたのが機械打ち壊し（ラダイト，ラッダイト）運動である。よって「不熟練労働者」という語は不適当である。

問９　最初に蒸気機関車を考案したのはトレヴィシックであったが，初めてこれを実用化し，ストックトン・ダーリントン間で鉄道を走らせたのはスティーヴンソンである。因みにアークライトは 1768 年に水力紡績機を発明した人物であり，フルトンは 1807 年に蒸気船クラーモント号でハドソン川の遡行を成し遂げた人物である。

**【3】**

**解答**

イ　b　　ロ　c

①　d　　②　b　　③　a　　④　b　　⑤　b　　⑥　c　　⑦　b　　⑧　d

**解説**

産業革命に関する問題。正誤判定問題には細かい事項も含まれているが，このテーマを理解するには必要な内容なので，これを機に覚えておこう。

イ　スティーヴンソンが改良を加えた蒸気機関車は，1825 年にストックトン・ダーリントン間での試験走行に成功し，実用化への道を開いた。1830 年にはマンチェスター・リヴァプール間で最初の営業運転が開始された。

ロ　機械化で職を失った職人たちによって，ラダイト運動と呼ばれる機械打ち壊し運動がイングランド中・北部を中心に展開されたが，1810 年代をピークとして衰えた。

①　オランダ東インド会社は，フランス軍に本国が圧迫されたことと，植民地経営の悪化によって 1799 年に解散した。

②　プラッシーの戦いにフランスは敗北し，インドの支配権をイギリスに奪われたものの，拠点としていたポンディシェリ・シャンデルナゴルは引き続き領有し，1954 年にインドに返還した。

③　力織機はカートライトによって発明された。ｂのハーグリーヴズはジェニー紡績機，ｃのアークライトは水力紡績機，ｄのクロンプトンはミュール紡績機を発明した人物である。

④　ニューコメンは蒸気機関を炭鉱の排水ポンプの動力として実用化した。ａのフルトンは蒸気船，ｃのトレヴィシックは蒸気機関車（性能が低く実用化には至らなかった），ｄのホイットニーは綿繰り機の発明者である。

⑤　鉄・石炭などの資源を豊富に有していたことも，イギリスで産業革命が最初に起こった理由の１つとされている。ダービーがコークス製鉄法を開発したことにより，すでに枯渇していた木炭から，大量に供給可能な石炭へと工業用の燃料が転換した。

⑥　やや細かい。1844 年の工場法では，８～ 12 歳の６時間半，女性の 12 時間労働が規定された。

⑦　第１インターナショナルは 1864 年にロンドンで結成された，世界初の労働者による国際的な連帯組織である。創立宣言と規約はマルクスが起草した。

⑧　第一次世界大戦中，総力戦の中で女性の社会進出が進んだことを受けて，第４回選挙法改正（1918）では成年男性と 30 歳以上の女性に選挙権が拡大された。

# １２章　近代Ⅱ

## 問題

【1】

**解答**

(1) 47　(2) 22　(3) 4　(4) 26　(5) 23　(6) 15　(7) 17　(8) 39
(9) 13　(10) 49　(11) 9　(12) 41　(13) 32

**解説**

アメリカ独立革命をテーマとする問題。13 植民地の建設から独立革命に至るまでの過程が詳細に述べられているので，理解がさらに深まるだろう。

(1) 「16 世紀にヴァージニア植民」に失敗した「エリザベス１世の寵臣」からウォルター＝ローリが正解となる。冒険家でもある彼は，エリザベス朝の代表的な人物である。失敗に終わったローリのヴァージニア植民は 1584 ～ 85 年で，1607 年にロンドン会社（後のヴァージニア会社）が初めて恒久的な植民地ヴァージニアを建設することになる。

(2) 13 植民地で最後に建設されたのはジョージアであり，その名は当時の国王ジョージ２世に因む。本国政府は他の 12 植民地建設に際しては積極的な援助を行わなかったが，このジョージア植民地は唯一の例外であった。その理由は，スペイン領フロリダとイギリス植民地の当時の最南端に当たるサウス＝カロライナとの間に，防衛上の観点から緩衝地帯を設けることにあった。なお，13 植民地では，最初に建設されたヴァージニア（1607），ピルグリム＝ファーザーズが建設したニューイングランド（1620），ウィリアム＝ペンが築いたペンシルヴァニア（1681），そして最後に建設されたジョージア（1732）の４つをとくにチェックしておきたい。

(3) 難問。1619 年にオランダ商船がアフリカから西インド経由で運んできた黒人奴隷をヴァージニアが最初に輸入した。奴隷は，北部では主に家内奉仕に，南部ではプランテーションに行使された。奴隷制度は 1680 年代から進展を見せ，植民地独立の頃になると，黒人人口は南部ではその人口の約 40%，13 植民地全体では人口の約 20%を占めるほどになっていた。

(4) 主にニューイングランド地域で行われていた，全有権者参加の直接民主政はタウンミーティングと呼ばれている。これは本国イギリスとの距離が遠かったために発達した地方自治制度であった。

(5) 合衆国の独立を招き，国民の不平をかったイギリス国王はジョージ３世（位 1760 ～ 1820）である。彼は 1811 年以後，精神異常と失明により廃人となった。

(6) 独立戦争勃発の地はレキシントンとコンコードである。これはペアで覚えておくこと。

(7) 1777 年のサラトガの戦いで植民地軍がイギリスに勝利すると，これを機に米仏同盟が翌 78 年に成立した。この点からも，サラトガの戦いは独立戦争の転機となった戦いといえる。

(8) 盲点をついた問題。もう一度確認しておこう。

(9) コシューシコ（1746 ～ 1817）はポーランド独立運動で活躍した人物であるが，このよう

にアメリカ独立軍で「ワシントンの副官」として活躍した人物として問われることも多い。要注意である。

⑽ 「アメリカ合衆国（United States of America）」という国名を用いることを13州が決定したのは，1777年のアメリカ連合規約においてである。但し，その発効は1781年と定められた。

⑾ 連合規約では，中央政府の国防権，外交権，貨幣鋳造権は認められていたが，課税権，通商規制権，常備軍の保持は禁じられた。

⑿ ジェファソンを中心とする反連邦派の人々は民主共和党（リパブリカン）を結成した。19世紀前半に優勢だったこの党は，のちに分裂し，その多くは民主党へと流れ，その前身となった。

⒀ ハミルトン（1757～1804）は独立戦争中にワシントンの副官として活躍し，戦争後にはワシントンの下で財務長官を務め（任1789～95），公債の処理や合衆国銀行の設立など，連邦財政の基礎を固めた。それとともに連邦派の中心的人物として活躍したが，公私双方の宿敵アーロン＝バーとの決闘で死亡した。

【2】

**解答**

問A　4　　問B　2　　問C　1　　問D　3　　問E　2　　問F　3　　問G　2

**解説**

アメリカ独立革命を中心とした問題。概ね基本的な知識で解答できるので，確実に正解したい。

問A　植民地議会が最初に設けられたのは，ヴァージニアである。ジョージアは13植民地のうち最も遅れて成立した植民地で，イギリスの債務者救済のために，1732年に建設された。

問B　審査法は，チャールズ2世がカトリックの信仰の復活をはかったことに対抗してイギリス議会が1673年に定めた法律であり，公職就任者は国教徒に限定された。

問C　1775年，ボストン北西部のコンコードでイギリス本国軍が武器を接収しようとしたことから，レキシントンとコンコードにおいて武力衝突が発生し，独立戦争の発端となった。サラトガでは1777年に植民地側がイギリス軍を降伏させた。ヨークタウンでは1781年に植民地側とフランス連合軍がイギリス軍を包囲・降伏させ，独立戦争における植民地側の勝利を確定させた。

問D　ミラボーはフランス革命において国民議会の中心として活躍した人物である。コシューシコはポーランドの愛国者，ラ＝ファイエットはフランスの自由主義貴族，サン＝シモンはフランスの空想的社会主義者で，いずれもアメリカ独立革命に義勇兵として参加している。

問E　アメリカ独立宣言では，ロックの自然法思想を基盤として，基本的人権・革命権を主張している。したがって，2で述べられている「政府が生来的に人民の財産権や自由を制限する権利を有している」という記述とは合致しない。

問F　連邦最高裁判所が設置されるのは，三権分立の原則を定めた1787年のアメリカ合衆国憲法においてである。

問Ｇ　連邦の権限強化を強く主張した連邦派（フェデラリスト）の中心となった人物はハミルトンである。ハミルトンは初代大統領ワシントンの下で財務長官を務めた。

# １３章　近代Ⅲ

## 問題

【1】

**解答**

1　a・c　2　b・e　3　b・d　4　ア　a・e　イ　a・d　5　a

**解説**

フランス革命とナポレオン時代を中心とした当時のヨーロッパの情勢がこの問題の主題となっている。問題形式は正誤判定と選択から成るが，どれも細かい事項まで含み，正確な知識と判断力が要求される。

1　a　1789 年 6 月，第三身分代表は“球戯場（テニスコート）の誓い”を行うが，これは「貴族や聖職者を排除して，自分たちだけが真の国民の代表であると主張」したのではなく，「憲法が制定されるまでは解散しない」ことを誓った宣言であった。

c　この憲法は「1791 年憲法」に当たるが，人権宣言はこれに先立つ 1789 年の 8 月 26 日に発表されているので，誤りとなる。基本的な年代を覚えていれば即答できるだろう。

2　b　第一身分は聖職者，第二身分は貴族である。この手のひっかけ問題はよく出題されるので注意しておこう。

e　ルイ 14 世はたび重なる対外戦争を強行し，その治世の晩年には国家財政が窮迫した。これは明白な事実ではある。しかし「銀行家ネッケル」に財政改革を行わせたのはルイ 15 世（位 1715 ～ 74）ではなく，フランス革命期の国王ルイ 16 世（位 1774 ～ 92）である。また，ルイ 15 世はルイ 14 世の曾孫に当たる。

3　基本問題。1791 年，ルイ 16 世の王妃マリ＝アントワネットの兄であるオーストリアのレオポルト２世と，プロイセンのフリードリヒ＝ヴィルヘルム２世がピルニッツ宣言を発し，フランス革命に干渉した。

4　ア　ユトレヒト条約が締結されたのは 1713 年。この条約はスペイン継承戦争（1701 ～ 13）の講和条約だが，問題項目の王の在位年を見てみると，ルイ 14 世（位 1643 ～ 1715），ルイ 15 世（位 1715 ～ 74），ジェームズ２世（位 1685 ～ 88），フリードリヒ２世（位 1740 ～ 86），カール６世（位 1711 ～ 40）となるので，ルイ 14 世とカール６世が該当することがわかる。

イ　a　イギリスのセイロン島（スリランカ）領有が認められたのは，ナポレオン戦争終結時に同盟国とフランスとの間で結ばれたパリ条約においてである。なお，この条項はウィーン議定書（1815）でも再確認されている。

b　これはユトレヒト条約で決められた事項で，この時イギリスはスペインからミノルカ島も獲得している。因みに，ジブラルタルはユトレヒト条約以後，現在に至るまでイギリス領である。

c　ユトレヒト条約において，ブルボン家のスペイン王位継承は認められたが，スペイン王はフランス王位継承権を永久に放棄することがその条件とされた。

d　これは七年戦争（1756 ～ 63）の講和条約であるパリ条約（1763）で決められた事項である。

e　スペイン継承戦争に連動して北米ではアン女王戦争（1702 ～ 13）が展開された。ユトレヒト条約はこの講和条約でもあり，その中に，ここで述べられている条項も規定されている。因みにノヴァスコシアとはアカディアの別名である。入試にもしばしば登場するので，こちらの名称もチェックしておこう。

5　オーストリア継承戦争（1740 ～ 48）でプロイセンのフリードリヒ２世にシュレジエンを奪われたマリア＝テレジアは，その奪還を悲願とし，長年敵対してきたフランスのブルボン朝と提携するという外交革命を行い，これを背景に七年戦争を戦った。なお，この時ロシアはオーストリア側に立った。これに対してプロイセンを援助したのはイギリスのみで，しかもそれは資金援助に留まっており，フリードリヒ２世は窮地に立たされた。この戦況が逆転するのは，ロシアでフリードリヒ２世を崇拝するピョートル３世が即位し，対オーストリア戦線から脱落したからで，結局 1763 年のフベルトゥスブルク条約ではシュレジエンはプロイセン領として再確認された。

【2】

**解答**

ア　30　　イ　3　　ウ　1　　エ　23　　オ　19　　カ　6　　キ　14　　ク　25

ケ　12　　コ　2　　サ　13　　シ　39　　ス　9　　セ　31　　ソ　40

問Ⅰ　(1)　聖職者　　(2)　シェイエス　　(3)　ピット　　(4)　ロゼッタ＝ストーン

問Ⅱ　A　2・5　　B　2・4

**解説**

フランス革命の勃発からナポレオン時代が始まるまでの問題。問Ⅰは基本問題であり，全問正解が望ましい。問Ⅱは完答であるため手を焼く人も多いと思うが，このような問題が合否の分かれ目となるので要注意。

ア・イ　ルイ 16 世が財政改革に用いた人物は重農主義者のテュルゴー（任 1774 ～ 76）。自由主義改革による財政再建を企てるが，特権身分の反対で失敗した（テュルゴーが特権階級への課税を主張していないことは要チェック）。銀行家のネッケル（任 1777 ～ 81，88 ～ 89）は公債募集による財政再建を推進するが，アメリカ独立戦争への参戦で破綻したため，特権身分への課税（免税特権の廃止）を主張し，カロンヌ（任 1783 ～ 87）も特権身分への課税などによる財政再建を企て，名士会（国王の諮問議会，聖職者・貴族・上層ブルジョワで構成）を招集したが，いずれも特権身分の反対で失敗した。トゥールーズの大司教のブリエンヌ（任 1787 ～ 88）はカロンヌの政策を継承し，特権身分への課税などによる財政再建を決意したが，これもまた特権身分が改革に反対し，1614 年を最後に 1615 年以降開かれていなかった三部会の召集を要求することになった。以上からアはネッケル，イは三部会。

ウ　三部会の議決法で，特権身分は身分別議決法を，第三身分は多数決を主張し対立。シェイエスの提案で第三身分は三部会から離脱し，議長バイイの提案で“憲法制定まで解散しない”ことを国民議会議員が誓約した。

エ　正しくは『人間および市民の権利の宣言』。ラ＝ファイエットらが起草したもので，自由・平等の基本的人権，国民主権，所有権の不可侵を主張した（全17カ条）。アメリカ独立宣言やルソーの啓蒙思想の影響を強く受けている。

オ　ルイ16世が，国民議会の制定した封建的特権の廃止や人権宣言を認めず，国民議会の弾圧を企図したこと，また前年1788年の凶作で，食糧難に苦しむパリ民衆（特に主婦）が国王に抗議したことなどが要因となった。

カ　国民議会は目的を達成して解散。制限選挙（財産資格選挙）で立法議会が開かれた。

キ　立憲君主派はフイヤン派で，大商人の利害を代表するのは穏健共和派のジロンド派。ジロンド派の中心人物はコンドルセで『人間精神進歩の歴史的素描』の著作がある。

ク　ヴァレンヌ逃亡事件に際し，オーストリア皇帝レオポルド２世（位1790～92）とプロイセン王フリードリヒ＝ヴィルヘルム２世（位1786～97）はピルニッツ宣言（1791. 8）で革命に対する武力干渉の用意があることを共同で声明していた。

ケ・コ　開戦期は軍隊（常備軍は王の軍隊）に王党派が多く，敗退を続けた。オーストリア・プロイセン連合軍がパリに迫るとジャコバン派が“革命を守れ”と呼びかけ，各地から義勇兵がパリに集結した。義勇兵の歌の１つにラ＝マルセイエーズがある（1795年にはフランス国歌となる）。八月十日事件（1792. 8. 10）でそれらの義勇兵やサンキュロットがテュイルリー宮殿を襲撃し，王の反革命の計画が暴露されたため，王権は停止した。

サ・シ　ジャコバン派は武力でジロンド派を追放した（六月二日事件）。しかし恐怖政治から民衆の支持を失ったロベスピエールは，テルミドールのクーデタで捕らえられ，処刑された。

ス・セ　総裁政府（1795. 10～99. 11）は穏健な共和政を採り革命の急進化を是正し，左右勢力の排除を推進したが，５人の総裁に権力を分散したため政局は常に不安定で，政策実行は困難を極めた。自由主義経済の確立をめざしたが物価高騰などの影響を受け，経済はさらに逼迫した。こうした混乱の中で，右派の王党派・左派のジャコバンの残党らによる政治介入や，私有財産制の廃止など共産主義的な政策を掲げての政府打倒計画を企て失敗したバブーフの陰謀（1796. 5）など，反政府運動が頻発した。

ソ　ブリュメール18日のクーデタ（1799. 11. 9）では，エジプトから単身帰国したナポレオン＝ボナパルトが，シェイエス，タレーランとともにクーデタで総裁政府を倒し，３人の統領からなる統領政府を樹立した。これをもってフランス革命の終焉，ナポレオン時代の始まりとする。

問Ⅰ　⑴　常識問題。確実に正解すること。

⑵　シェイエスは第三身分出身の聖職者。三部会召集に際して特権身分を攻撃し，「第三身分とはすべてである」と主張した。

⑶　第１回～第３回の対仏大同盟結成を提唱したのはトーリ党の首相ピット（小ピット；任1783～1801，1804～06）。父のピット（大ピット）も政治家として七年戦争を指導するなど活躍した。

⑷　1799年に発見されたロゼッタ＝ストーンは，古代エジプトではなく，ヘレニズム時代のプトレマイオス朝のプトレマイオス５世を讃えた前196年の碑文で，神聖文字（ヒエログリフ），民衆文字（デモティック），ギリシア文字の３書体で刻まれている。フランスのエジプト学者シャンポリオンは1822年にこの碑文を手掛かりに神聖文字の解読に成功した。ロ

ゼッタ＝ストーンは現在大英博物館に所蔵されている。

問Ⅱ　A　フランス革命は長いため，いろいろな出来事がどの時代に起こったのかはよく出題されるパターンである。

1　封建的貢租（地代）の無償廃止は，国民公会（1792. 9. 21 ～ 95. 10）期における，ジャコバン派の恐怖政治時代に行われた（1793. 7）。

3　国民公会期のジロンド派内閣時代にルイ 16 世が処刑された（1793. 1. 21）。

4　国民公会期におけるジャコバンの恐怖政治時代に亡命貴族の土地が没収されている。

B　2　統領政府（1799 ～ 1804）時代，イギリスで和平論が強まりピットが失脚した。外交で第２回対仏大同盟を崩壊させたことから，軍人ナポレオンの外交手腕の評価が高まり，ナポレオンは人民投票で終身統領となった。

4　徴兵制は 1793 年２月に制定されたが，ロベスピエール時代に廃止されてはいない。

◆参考：ジャコバン派

1789 年，ヴェルサイユで三部会が開催された際，ブルターニュ出身議員で結成された政治結社。ジャコバン党とも呼ぶ。初めはブルトン＝クラブといわれたが，パリに移ってジャコバン修道院（ドミニコ会）を本部としたので，ジャコバン＝クラブと呼ばれるようになった。正式名称は「憲法の友の会」（1792 年９月以降は「ジャコバン協会」「自由と平等の友」）。

当初この結社の主たる目的は，議会の重要な議事の事前討議にあったが，他の議員や民間ブルジョワ層が入会するにつれて性格を変え，とくに恐怖政治下には，革命政府を補佐代弁する最大の全国的な民間革命運動組織となった。その傾向の差異により，創立から 1792 年頃までの穏和な立憲君主主義者（フイヤン＝クラブ）の指導した時期，93 年５月までのジロンド派と山岳派の対立した時期，94 年７月のテルミドール９日までの山岳派の支配した時期，そして 94 年 11 月の閉鎖までの衰退期の，およそ４時期に分けられる。

**【3】**

**解答**

⑴　b　⑵　d　⑶　c　⑷　d　⑸　d　⑹　c　⑺　b

設問①　小ピット　設問②　クトゥーゾフ

**解説**

フランス革命・ナポレオン期の，国民議会・立法議会・国民公会・総裁政府・統領政府・帝政の各時代の内容・背景・影響，当時の国王・首相など，混乱しやすい事項が連続する時代である。要注意の上，入念な対策を行おう。

⑴　正しいのはｂ。消去法で考える。

a　王制廃止の原因は義勇兵とサンキュロットがテュイルリー宮殿を襲撃した 1792 年の八月十日事件である。1791 年憲法は共和政ではなく立憲君主制。

c　ラ＝ファイエットなどが起草した人権宣言はアメリカ独立宣言・ルソーの啓蒙思想の影響を受けて，自由・平等の基本的人権，国民主権，所有権の不可侵を主張している。人権宣言は憲法の前文であるが，封建的特権の廃止は憲法の前文ではない。

d　ミラボーたち立憲王政（フイヤン）派は1791年憲法を推進している。また，ミラボーは1791年４月に急死しているので，1791年９月３日に発布された憲法には反対できない。

⑵　正しいのはｄ。

a　ヴァレンヌ逃亡事件を契機とするオーストリア皇帝レオポルト２世とプロイセン王フリードリヒ＝ヴィルヘルム２世が共同で声明したピルニッツ宣言は，フランス王権（ルイ16世）の救援を諸国の君主に訴えるものであり，干渉戦争の一因となるが宣戦布告ではない。

b　国民公会（1792. 9. 21 ～ 95. 10）ではなく，立法議会（1791. 10. 1 ～ 92. 9）の誤り。政権はジロンド派であったがジャコバン派が義勇兵を訴えた。

c　徴兵制は国民公会が1793年２月に実施した。

d　フランス義勇兵がオーストリア・プロイセン連合軍に初めて勝利したのを見たゲーテは“ここから，そしてこの日から，世界史の新しい時代が始まる”と綴った。

⑶　ジャコバン独裁体制下に実施されなかったのはｃ。1793年憲法，通称ジャコバン憲法には直接普通選挙が含まれたが，制定されたものの未実施に終わった。なお，ａは1793年７月，ｂは1793年５月，ｄは1793年３月に，それぞれ実施された。

a　封建的貢租（封建地代）の無償廃止で農奴から農民となった者に土地が与えられ，現在のフランスに多い小自作農が誕生した。土地を持つことで保守化した農民はジャコバンの政策の急進化に対する不満を持つようになった。

⑷・設問①　正しくないのはｄ。ナポレオンはコルシカ島の貴族出身。

a　ナポレオンのエジプト遠征を契機として，イギリスの小ピットの提唱で第２回対仏大同盟が結成された。フランス革命とナポレオン戦争については，政府の変遷とともに対仏大同盟がそれぞれ何をきっかけに提唱され，何をきっかけに崩壊するのかを，まとめておくのがよい。

⑸　正しくないのはｄ。女性が対等ということはない。男子普通選挙は1848年で先進国でも早い方であるが，女性の参政権が認められたのは1944年である。

⑹　ナポレオンが帝位に即いたのは1804年。それ以前の出来事はｃの1802年のアミアンの和約。イギリスと講和を結んだことで第２回対仏大同盟が崩壊し，ナポレオンが人民投票により終身統領に就任する契機となる。和約締結にはイギリスで和平論が強まり小ピットが失脚していたことが背景としてあった。

a　ロシア皇帝アレクサンドル１世，オーストリア・神聖ローマ皇帝フランツ２世とのアウステルリッツの戦い（三帝会戦）は1805年12月。

b　ティルジット条約は1807年７月に結ばれたイエナの戦い（アウエルシュタットの戦い）などに関するプロイセン・ロシアとの講和条約である。

d　西南ドイツ諸邦を併せたライン同盟が成立するのは1806年。これに伴い西南ドイツ諸邦は神聖ローマ帝国から離脱したため，三十年戦争後のウェストファリア条約によって有名無実化していた神聖ローマ帝国（962 ～ 1806）の皇帝は帝位を辞し，帝国は滅亡した。

⑺・設問②　ナポレオンの没落の原因として正しくないのはｂ。決して帝政が原因とはいえない。とくに重要なのは各国の民族意識・国民主義（ナショナリズム）が覚醒したことである。例としてフィヒテの連続講演「ドイツ国民に告ぐ」，スペイン反乱（半島戦争；1808 ～ 14）などが挙げられる。また，トラファルガーの海戦（1805. 10）でイギリス上陸に失敗したナ

ポレオンが大陸封鎖令（ベルリン勅令；1806）を発布したことも重要な原因の１つである。“イギリスに穀物を売るな，イギリスから工業製品を買うな”として，大陸諸国とイギリスとの通商を規制し，イギリス経済への打撃とフランス産業による大陸市場独占をめざしたが，産業革命は始まっていたとはいえフランスにはイギリスほどの工業力はなく，逆にヨーロッパ各国にダメージを与える結果となった。ロシアは大陸封鎖令に違反してイギリスへの穀物輸出を再開し，ナポレオンは制裁としてロシア遠征（1812）を行ったが，クトゥーゾフの焼土作戦などにより失敗に終わった。

【4】

**解答**

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問１ | 1 | c | 2 | d | 3 | d | 4 | a | 5 | e | 6 | e | 7 | c | 8 | d | | |
| | 9 | d | 10 | e | 11 | c | 12 | b | 13 | c | 14 | b | 15 | c | | | | |
| 問２ | 1 | b | 2 | e | 3 | e | 4 | b | 5 | d | 6 | d | 7 | b | | | | |
| 問３ | あ | f | い | e | う | d | | | | | | | | | | | | |

**解説**

ナポレオン時代に関する問題である。短い期間に多くの出来事が起こるが，流れをよく確認して，年代整序問題でも確実に正解したい。

問１　1　a　ナポレオンは1799年にブリュメールのクーデタによって総裁政府を倒し，統領政府を樹立した。1802年の終身統領就任に当たっては，国民投票を行い，多数の支持を得た。

b　ナポレオンの皇帝即位に際して結成されたのは，第３回対仏大同盟である。第２回対仏大同盟はナポレオンのエジプト遠征を機に結成された。

d　第一共和政は，国民公会が1792年に王政の廃止と共和制の樹立を宣言して成立した。総裁政府・統領政府を経て，1804年のナポレオンによる第一帝政の成立まで続いた。

e　ベートーヴェンはナポレオンに共感して『英雄』を作曲したが，ナポレオンの皇帝即位には批判的であった。

2　1801年に結ばれた宗教和約（コンコルダート）では，政府が聖職者を指名し教皇が任免権を持つこと，革命時の没収教会財産は返還しないことなどを取り決めた。

3　ナポレオンの兄ジョゼフがナポリ王に即位したのは1806年である。同年に，ライン同盟が結成されたことにより，神聖ローマ帝国が消滅した。イエナの戦いではプロイセン軍を破り，大陸に支配を広げたが，イギリスへの経済的打撃を与えるために発布した大陸封鎖令は失敗に終わり，ナポレオンの権威失墜の一因となった。

4　ナポレオン法典に先立ち，1793年に制定された1793年憲法においても主権在民が認められていた。しかし，革命の激化を理由に実施されることはなかった。ナポレオン法典は革命で確立された近代市民社会の法原理を集大成したものである。

5　イエナの戦いでナポレオンに敗北したプロイセンは，ティルジット条約によって莫大な賠償金と領土の大半の割譲を課された。これにより，プロイセン国内でナショナリズムが高まり，シュタイン・ハルデンベルクらの指導によって近代化が推進された。

6　イタリア遠征は1796～97年に行われ，ナポレオン率いるフランス軍がオーストリア・イタリア諸勢力を破った。大陸封鎖令は1806年に発布された。

7　第3回対仏大同盟は，ナポレオンによるフランス第一帝政の成立に対抗して，イギリス・オーストリア・ロシアによって1805年に結成された。

8　ライン同盟はナポレオンを盟主とする西南ドイツ諸邦による同盟で，プロイセン・オーストリアに対抗するために1806年に結成された。

9　1648年のウェストファリア条約によって帝国内の領邦に主権が認められたことで神聖ローマ帝国は有名無実化していたが，ライン同盟の結成により，名実ともに消滅することとなった。

10　シュタイン・ハルデンベルクらによって進められた近代化政策では，農奴制の廃止，行政機構の改革，営業の自由化などが行われた。さらに，シャルンホルスト・グナイゼナウは軍制改革を行い，フンボルトは教育制度の改革を行った。

11　ナポレオンは1806年1月のイエナの戦いでプロイセン・ロシアを破り，ヨーロッパの大部分を支配下に置いた。イギリスはなおも屈服しなかったため，ナポレオンは同年11月にベルリンで大陸封鎖令を発し，大陸諸国とイギリス間の通商・交通を全面的に禁じた.

12　スペインの画家であるゴヤは，「1808年5月3日の処刑」「巨人」などでナポレオン軍のスペイン侵入を描いた。

13　宗教協約の成立は1801年，フランスによるルイジアナ売却は1803年，ナポレオン法典の発布は1804年3月，ナポレオンの皇帝即位は1804年5月，ナポレオンの兄ジョゼフがナポリ王に即位したのは1806年である。

14　第3回対仏大同盟の結成は1805年8月，トラファルガーの海戦は1805年10月，アウステルリッツの戦いは1805年12月，大陸封鎖令の発布は1806年11月，ティルジット条約の締結は1807年7月である。

15　ライン同盟の結成は1806年7月，神聖ローマ帝国の解体は1806年8月，これらに脅威を感じたプロイセン・ロシアがナポレオンと戦って敗れたイエナの戦いは1806年10月，プロイセン改革は1807年以降，スペインにおけるナポレオンへの反乱は1808年である。

問2　1　八月十日事件は1792年8月，国民公会の成立は1792年9月，ルイ16世の死刑判決は1793年1月，また，これを受けて，第1回対仏大同盟が結成された。

2　ナポレオンの兄ジョゼフは1806年にナポリ王，1808年にスペイン王に即位した。

3　合衆国によるルイジアナ買収は1803年，ハイチ独立は1804年，米英戦争は1812～14年，ベネズエラ独立は1830年である。

4　アミアンの和約は1802年3月で，これにより第2回対仏大同盟が解消された。第2次ピット内閣成立は1804年，トラファルガーの海戦は1805年である。

5　第1回対仏大同盟はフランス軍のベルギー占領とルイ16世の処刑を機に1793年に結成された。第2回対仏大同盟はナポレオンのエジプト遠征などを理由に1799年に結成された。第3回対仏大同盟はナポレオンの皇帝即位に対抗して1805年に結成された。第4回対仏大同盟はナポレオンのロシア遠征失敗を機に1813年に結成された。

6　ライン同盟崩壊後，ウィーン体制の下で結成されたドイツ連邦には，35の君主国と4自由市が参加した。

7　神聖ローマ皇帝フランツ２世（位 1792 ～ 1806）は，アウステルリッツの戦いでナポレオンに敗れ，ライン同盟が成立したため退位した。

問３　ティルジットは現在のリトアニア共和国のソヴェック市，アウステルリッツは現在のチェコの地，イエナはドイツ中部に位置することも押さえておきたい。

## 【5】

**解答**

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問Ａ | a | 4 | b | 2 | c | 2 | d | 1 | e | 3 | f | 2 | g | 4 | h | 3 | | |
| | i | 1 | j | 3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 問Ｂ | ア | 3 | イ | 1 | ウ | 2 | エ | 4 | オ | 2 | | | | | | | | |

**解説**

ナポレオンに関する問題。いずれも基本的な問題であるので，完答をめざしたい。

問Ａ　a　ロベスピエールは 1794 年のテルミドールのクーデタによって失脚し，処刑された。

b　バブーフは総裁政府成立後，秘密結社を組織して，私有財産の廃止と共産主義社会の建設を提唱し，民衆による革命を企図したが，武装蜂起直前に逮捕され，処刑された。

c　ナポレオンは 1796 ～ 97 年にイタリア遠征を行い，オーストリア・イタリア諸勢力を破った。これによって，第１回対仏大同盟は崩壊した。

d　シェイエス神父は『第三身分とは何か』を著してフランス革命初期に理論的指導者として活躍し，総裁政府時代には，ナポレオンのクーデタに参画した。

e　1802 年３月に英仏間でアミアンの和約が締結され，第２回対仏大同盟は解消された。

f　ネルソンはトラファルガーの海戦においてフランス・スペインの連合艦隊を破った。これによりナポレオンは対英上陸作戦を断念し，ヨーロッパ大陸の制覇へと方針を転換した。

g　1805 年 12 月，アウステルリッツの戦いでナポレオンはアレクサンドル１世率いるロシアと，神聖ローマ皇帝フランツ２世率いるオーストリア軍を破った。これにより，第３回対仏大同盟は解消された。

h　プロイセンでは，イエナの戦いの敗北によって屈辱的な講和条約を締結したことへの反省から，シュタイン・ハルデンベルクらによる近代化政策が推進された。

i　1813 年 10 月，ライプチヒの戦いでプロイセン・オーストリア・ロシア軍がナポレオンを破った。

j　「百日天下」ののち，退位したナポレオンは南大西洋上のセントヘレナ島に流され，1821 年に死去した。

問Ｂ　ア　ロゼッタ＝ストーンに記されている碑文は，シャンポリオンによって解読された。ベヒストゥーン碑文を解読したローリンソン，ミケーネ文明期に用いられた線文字Ｂを解読したヴェントリスもともに押さえておきたい。グローテフェントはペルセポリス碑文を研究した人物である。

イ　ダヴィドはナポレオン１世の首席宮廷画家であり，代表作に「ナポレオンの戴冠式」がある。アングルはダヴィドの弟子で，古典主義絵画の完成者といわれる。ドラクロワはロマン主義の代表的画家であり，「キオス島の虐殺」「民衆をみちびく自由の女神」などを描いた。

クールベは写実主義画家で，働く農民の姿などに題材をとった絵画を残している。

ウ　ナポレオンの皇帝即位に対抗して，第３回対仏大同盟が結成された。

エ　ティルジット条約により，旧ポーランド領にワルシャワ大公国が結成された。ウィーン会議後に消滅し，ロシア皇帝が国王を兼ねるポーランド立憲王国が建国された。

オ　ルイ 18 世（位 1814 ～ 24）はルイ 16 世の弟で，1791 年以降海外に亡命していた。ナポレオンの失脚により帰国し，国王に即位した。

W3M
早慶大世界史

Z-KAI

| 会員番号 | |
|---|---|

| 氏　名 | |
|---|---|

不許複製